

「実らないいちじくの木のとえ」

2023年08月16日

それから、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。切り倒してしまえ。なぜ、土地を無駄にしておくのか。』園丁は答えた。『ご主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥しをやってみます。もし来年実を結べばよし、それで駄目なら、切り倒してください。』」（ルカ13：6～9）

主イエスは一つの譬えを話された。ある農園主がぶどう園にいちじくの木を植えた。ぶどうといちじくは、ユダヤでは豊かさを象徴する果実である。農園主は、いちじくの木が実をつけていることを期待して、探しに行ったが、実はない。そこで、園丁に、もう三年もの間、いちじくの実を探しに来ているが、見つけたためしがない。土地を無駄にしないために、この木を切り倒してしまえと命じた。すると園丁は、「ご主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥しをやってみます。もし来年実を結べばよし、それで駄目なら、切り倒してください」と答えた。園丁は、木の周りに肥しをやってみますから、伐採するのを一年、待つように懇願した。

この譬えの農園主は神であり、園丁は農園を管理する人、ここでは主イエスを指すと理解できる。神は、神を信じ、隣人を愛することをしない実のない人間に愛想をつかし、滅ぼしてしまおうと考えた。ところが、主イエスは、今はこのままにして、肥料をやれば、次には実を結ぶような人間になりますからと、神に忍耐を申し出たという譬えである。

マタイ福音書13章に、主イエスは「毒麦の譬え」を語っておられる。良い麦の種を蒔いた。すると、敵が来て、麦畑に毒麦を蒔いて行った。芽が出て、実を結ぶ時を迎えたが、毒麦も現れた。僕たちが、良い種を蒔いたのに、どうして毒麦が生えたのでしょうかと問うと、主人は敵の仕業だと答えた。僕たちは、では、抜き取りましようと言うと、主人は、「いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで両方を育つままにしておきなさい。刈り入れの時、まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦のほうは集めて倉に収めなさい（マタイ13：29b～30）」と言った。毒麦を抜く時、良い麦まで抜き取ってしまうので、刈り入れまで、傷つけないように、忍耐して待ちなさいと言われた訳である。この譬えも神の忍耐を言い表している。

パウロは、神の忍耐について書いている。「これまでに犯されてきた罪を見逃して、ご自分の義を示すためでした。神が忍耐してこられたのは、今この時にご自分の義を示すため、すなわち、ご自分が義となり、イエスの真実に基く者を義とするためでした（ローマ3：25b～26）。」パウロは将来を囑望されたファリサイ派の学徒として、十字架で死んだイエスを信じる信仰はあり得ないと、クリスチャンを迫害していた。その自分が復活した主イエスに出会い、福音を宣教する人に変えられた。パウロは、罪を見逃し、義とするために、自分に対する神の忍耐を誰よりも深く認識していたであろう。「忍耐と慰めの源である神が、あなたがたに、キリスト・イエスに倣って互いに同じ思いを抱かせ、心を合わせ、声をそろえて、私たちの主イエス・キリストの父なる神を崇めさせていただきますように（ローマ15：5～6）。」神は、主イエスと同じ思いを抱き、神と一緒に賛美するように、待っておられる。神は、私たちの実りを待って、忍耐しておられる。